

消防団 コラム



「日本一の梅の里」
和歌山県紀州みなべ町
みなべ町消防団



今日は、南紀白浜空港から田辺市を通ってみなべ町までできました。この周辺を少しぶら~としてきたけど、いやいやいや、さすがは日本一の梅の里、あちらこちらに梅の木があって白い花が見事に咲いていて良い時期に来ました。



ダニエル ということで、今日は和歌山県日高郡にありますみなべ町の消防団長さん達に色々お話を聞きに来ました。よろしくお願ひします。

荒堀団長 みなべ町は、梅の町で、全国一の

有名な梅の町です。しかしながら、みなべ町は、写真で見るとおり海岸に面している町なのであの東日本大震災を考えると、もしあの津波がと思うとですね心配です。

ダニエル 海に面している部分は、何キロ位あるんですか？

荒堀団長 東西 14、15kmぐらいあります。

ダニエル かなり、長い沿岸ですね。

荒堀団長 はい、長いですね。

ダニエル 標高は、ここはどの位ですか？

荒堀団長 この役場の辺りは海拔 4 m で一番低いです。

ダニエル あら~。じゃあ東日本大震災のあれを見ていて、皆さんドキッとされたんではないですか？

荒堀団長 そうですね。この写真で見るとおり、海沿いで。ずっ~と山奥まで、みなべ町なんですね。南部平野が広がっていて、10 m 以上の津波が来たら大体全部やられると思います。海岸から 5 ~ 6km の市街地のところで大体 7 m

か、8mなんです。

ダニエル そうですね。三陸とか福島と同じように、海に近い所の方が低くて。この辺が平野ですか？

荒堀団長 このことを今は消防団としても課題としております。

ダニエル ところで、この平野のまわりとか山の方に入っていくても梅の栽培をしているんですか？



尾崎副団長 そうです。ほとんど、農家の方が多いです。

ダニエル 超有名でしょ。私も家でもよく食べていますし、この近辺で取材もさせて頂いたことがありますから、本当においしい梅干しのことは、全国的にも知られると思うんだけど、やっぱり、温かいところですね。

尾崎副団長 そうですね。

ダニエル 年中、常夏の所みたいな。今日は、冷たい風とちょこっと雪が降ってましたけども。でも、大体はやっぱり、冬はそんなに寒くならない所でしょうね。

小田副団長 そうですね。西日本のうちでも。年1回位ですかね。

ダニエル 雪が積もることは、あまりないんですかね？

小田副団長 最近は、ほとんどないですね。沖縄県以外で言えば、宮崎とかと気候はそんなにかわりませんよね。

ダニエル 私はアメリカのカリフォルニア南部で生まれで、育ってますから。結構この辺の気候が合うかもしれないなあ。こういう気候の良いところで、また農産物も栄えている所としては、やっぱり町の雰囲気はなんとなくわかりましたよ。のんびりしていますしいい意味でね。だから和歌山県紀州は、本当に過ごしやすい、住みやすいところだなあって。イメージがあったんですよ。ただ、災害的に言えば、さっき津波の話もありましたけれども。一番頻繁に来るのが台風ですか？

小田副団長 台風ですね。

ダニエル 台風は、やっぱり大変ですか？去年の大雨で？

荒堀団長 かなり水位上昇して、氾濫寸前でした。

ダニエル 氾濫寸前！！氾濫はしなかったんですか？

竹田副団長 壊れたところはあったんですけども。

ダニエル それほど大きな被害は？

竹田副団長 河川の氾濫は、なかったですが。

荒堀団長 でも山崩れが。団員ではないんですが、1名亡くなったんです。青年が家において生き埋めだったんです。

ダニエル あら～。関心がすごく高かったんですけども。初めて日本に留学したのが、高校生の時に奈良県五條市なんですけれども、五條市は、去年の雨でかなり被害を受けました。和歌山はもっと大変かなあって思っていました。ここは、幸いになんとか、氾濫寸前で良かったですね。

荒堀団長 そうですね。ただ、まあ予想外の水だったんで。そういう施設も、かなり破壊されていますし。今もまだ、復旧工事している状況ですね。

ダニエル いや～本当に、海外の方々の間でも、日本が話題になっているんですけども。なんか災害の多い国だね。国際的にニュースになり始め、それから、災害の多い国というイメージが出て来たんだよね。だから皆さんが、どの位よく準備しているかあまり把握してないんだけど僕は、ツイッターなどでいつも日本はよく出来ているよ。とか言っているんですよ。東北の北上川だとか、すごいでかい堤防とか作って準備はしているんですよ。かなり全国的に。でも、おっしゃった通り、想像もつかないような、異常な天気とか。地震とか。その時に消防団の動きって、目茶苦茶大きいと思います。消防も警察も自衛隊の皆さんも、よく頑張って下さったんだけど、ただ、消防団の仕事は、大変でございました。そこで皆様に聞きたいのですが皆さんは何故消防団員さんになりたかったのか。まずは、団長さんにお伺いしたいと思いますけど。

荒堀団長 なりたかったのではなくて、私が25歳の時に地元の5～6歳上の先輩に勧誘されて、その時は学校の友達も一緒に、声をかけられたら「はい」と言う感じで入るもんだと。そ

の頃は、思っていましたからね。

ダニエル なるほど、なるほどお、先輩だから入らざるを得ないと、入団しないとえらいことになると思ったのかなあ（笑）。

荒堀団長 あまり考えないで、すっーと入ってしまった。まあそのお陰で色んなことを教わったり、飲ましてもらったり、引っ張ってくれて、今に至ってます。

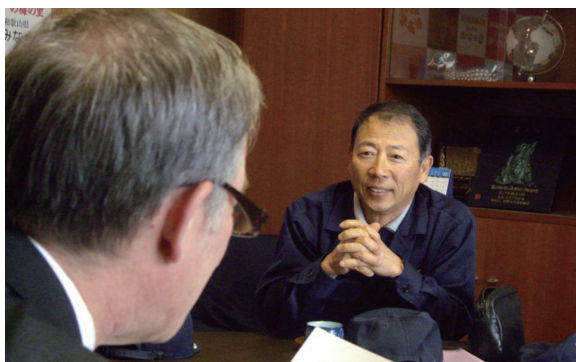
ダニエル 皆さんもだいたい、そんな感じですか？

尾崎副団長 私も、どっちかと言うとね、野次馬根性が強いんでね。サイレンが鳴ると「どこだ、どこだ」といって人生捨てられるタイプなのと、それから、おじいさんが消防団というのはね、入れと言うて来られたら、断るものではないんだよ、と、必ず誰かがやらなければならない。だから、言うて来られたら断ったらあかん。と子どもの頃から言われてました。それと、将来入りたかったのと、当時は、私の実家の方では、高校の卒業祝いに消防団員を勧誘する風習がありました。

ダニエル へえ、卒業証明書と共に。

尾崎副団長 家の門の前に法被を持って来られたら、そこで観念しなければならないと。

ダニエル やっぱ、地方や地域によって、習慣になっているというところで、若い男性の方は入るんでしょうね。



尾崎副団長 ところが、私が19歳の時には消防団が言うてこないんでね。それで悔しくて、もう入ってやらんと。そしたら、地域的にうちの地域なんかは、比較的若い人が多かったんで、ある程度順番というのがあったんで一人欠員が出来た時に、その人が勤めているということになっていて、私が24歳位の時に言うてきたんですよ。ところが、その当時、19歳のお祝いにくれるやつが、ようやく貰えたわけですよ。私は24歳の時にもう、この年になってとその当時いうたんですが、結局説得されて、もともと野次馬根性も強かったんで入りたかったというのもあって消防団に入ったんです。

ダニエル へえ、なかなか面白い話ですよ。ねえ、入りたい時に誘いが来なくて忘れたところに突然入ってくれと、でも、恥ずかしいような照れくさいような、でも入りたかった消防団に入って良かったですね。

では、小田副団長さんはどうだったんですか？

小田副団長 消防団に入ったきっかけは、地元ではこの地区で消防団員は何人って、だいたい決まっていたんですよ。年配の50代後半の方がもう辞めたいと思う時に、言うて来はるんだろ。代わりに入ってくれないかと、そんなタイミングで消防団にはいりました。

ダニエル じゃあ、一人の人が居なくなりますから、もう一人入れるというか。



小田副団長 合併後の今は、みなべ町ですけども、みなべ町で大体300名、今は1名減みただけですけども。300名の団員というのが大体決まっていて、それで、この地区で何名って決まっているんですよ。だから、年配の人が辞めたいとなったら、代わりに入ってくれんかというて聞きはるんですよ。

ダニエル ほう、なるほど。

尾崎副団長 辞める人が、次の人を後釜をこしらえるんですよ。

竹田副団長 大体25～6歳で入るんですけども。僕の場合、父親が消防団において、ある時父親が「お前が変わる」ということで、父親から僕になったんです。

ダニエル やっぱ、先輩達から紹介されて、って言う感じで皆さん消防団に入ってくるわけですねえ。先輩から後輩へ、親から子へって感じなんですねえ。

竹田副団長 だから、地元においても消防団というのは、入るべきものっていうんですか。認められた世界に、命令じゃないですけども、そういうところがありますよね。

ダニエル なるほど、そうですね。また、地域によっては伝統的なことになっているんですね。

竹田副団長 そうですね。ここ最近は何、なかなか。



ダニエル 近年社会が色々変わってきてますからね。若い人も、あんまり少なくなってますよね。高校卒業したら、和歌山行ったり、大阪に行ったりとか。そういう子が今は多いと思いますもんね。今もそうですけど、昔も消防団員さんにならないと一人前になれないみたいなことがあったんですか？

荒堀団長 みなべは、梅がいいでしょう。梅産業が。だから後継者が案外、農業をやっている方は残っています。だから、消防団の後継者も若い人が多いですよ。

ダニエル そういうつながりが必要なんですよね、長男が後を継ぐということになりますね。父さんが消防団に入っていれば、オラもって感じで自然に消防団に入るようになってくるんですよ。そうそう、それを聞こうと思ってましたけれども。消防団員さん達はどんな職業なさっている方が多いですか？やはり梅の関係する農家などですか？

竹田副団長 一番は、農業やなあ。あとは、サラリーマンや漁師もいますよ。

ダニエル 平均年齢は、そうするとどの位になるんですか？

荒堀団長 42歳くらいかな。よその地区に比べたら若いかなあ。

尾崎副団長 ダニエルさんお幾つなんですか？

ダニエル 私は、今度53歳になりますが、荒堀団長さんも副団長の皆さん達も若いんですよ。日本人って、憎いやなあ～悔しい～。ところで、みなべ町の消防団は、何か特別に無線のラジオですか？を使って非常時に備えようとしているお話しをお伺いしましたけども。みなさんが無線ですか？

荒堀団長 はい、ハムですよ。アマチュア無線です。ここの分団長の地域で、いま、尾崎

副団長の地元の分団では、いざという時のためにアマチュア無線を以前からやっていたんです。東北の震災の時にでも、基地局が津波で破壊されたり、停電などで、なかなか運用ができず消防無線通信不能になったり、携帯もダメな時にアマチュア無線がものすごく役にたったことを震災の後に現地の消防団の方に聞きまして、それでみなべ町消防団でもと思いました。

ダニエル それは、大正解だと思います。東日本大震災の時は、特にみなさんよくご存知のように、電話がちゃんと通じるようになるまでに1ヶ月位かかりましたね。もちろん、有線の方はだめ、携帯もだめだったし。唯一なんかある程度動いていたのが、ツイッターみたいなものが、ある程度利用できたんです。あれは、送るデータ容量が小さいから、小さいメモをあらかじめこちらに送り込むといのと同じだったから多少なりともできたんだけど。ただ、携帯でやっていたら、電源が切れるともう、そこでだめになったんですよ。そういう意味では、すごくいいアイデアだと思います。現代では、ちょっとなんていうかね。一昔の趣味でってイメージがあるんですよ。オラと同年にお友達なんですけれども。ものすごくアマチュア無線に、はまっている友達がいるんですよ。自分の家の脇に大きなアンテナが立っていて世界のあちこちの人と話しをする友達がいるんですよ。ある意味では、憧れたんですよ。格好いいなあと思ってたんですけども、ただ、今は携帯もあるし、なんでもかんでもあるから、アマチュア無線はレトロなんだけれども。災害の時は、すごく良いですよ。それは、いつ頃から始めたんですか？

尾崎副団長 それは、地元の分団員も何人か参加しているんですが民間の救助隊「紀州梅の

郷救助隊」を結成して、平成7年の阪神淡路大震災時にこの救助隊を立ち上げたんですよ。それ以降平成8年～9年位にアマチュア無線の必要性を知りひとつのアマチュア無線局を開局



しました。過去に実際に出動して中越地震とか中越沖地震とかで実際にハムで、交信してやり取りをしたことはなかったんですけども、その時も携帯は通じなかったんです。やっぱり、相互の連絡これは重要やってことで、この東日本大震災のちょっと前ぐらいやったかな。それぐらいから、救助隊だけでなく消防団にも普及すべきだということで、第5分団でまず第2段階目のスタートし基地局である「紀州梅の郷救助隊アマチュア無線クラブ JL3YXV」とのコラボレーションで非常時の運用の練習や体制を作りつつあるところです。特に非常時の連絡や情報収集など目的は一緒なんで同じように使ったらいいのではないかと、救助隊の基地局を提供しまして消防団員約28名いるうち20名アマチュア無線の従事者免許を取らしました。それから2名救助隊に無線の担当というか、好きな子が2人いてその子達が熱心に消防団の班長会の中で無線の従事者免許を取ろうというふうに言ったんですよ。



竹田副団長 ところが、最初はなかなか。なかなか、受かるかどうかとか、取るのも大変やとか、携帯があるやないかとかね。なかなか消防団員もノル気がなかったんですよ。そんな中で去年11月下旬から12月かけて、岩手県へ消防団幹部が派遣されて、現地で聞いてきた話が、やっぱり、その時にアマチュア無線が非常に活躍したと聞き、我々も台風12号の時に、孤立したこともあり、そんな時に、実際にアマチュア無線が役立つということで、消防団員にアマチュア無線の免許を取得させて非常に備えることとなり、現在、計画的に免許を取得させているところですよ。



ダニエル なるほど。

竹田副団長 それがあったんで、みんな幹部の連中からもアマチュア無線が必要だと言うことになり、荒堀団長が今後これに取り組むことにしようと言ったんです。

ダニエル 万が一の場合、これは助かると思います。携帯が通じなくなってもですね。みんな心配で電話かけたりすんじゃないですか。全国誰もが携帯持っているのだから、和歌山県の友達の所に電話一発入れようとか。「大丈夫か？大丈夫か？」有難いのは有難いが、緊急の連絡が不通となってしまう可能性があります。去年の豪雨の時、心配で奈良の知り合いに電話したんだ。全然通じなくて、やばいなあって、なんで電話が通じないんだって思ってたら、みなさんが心配で電話かけて「あっ、大丈夫、よかったわね。ところでお父ちゃんどうしてんの？」話が長くなれば、ほかの電話が通じづらくなり、その緊急の連絡には、すごくいいアイデアですよ。携帯電話を始めに使っていて、だめだったらアマチュア無線というか。あるいは、逆でもかまわないんだけど、色々練習すればするほど、だんだん連絡の取り合い方は、みなさん上手になってきているんじゃないんですか？

尾崎副団長 携帯は一对一の通話しか出来ないけれど、アマチュア無線だと全員が同じこと聞けると。

ダニエル そっか。同時に会議が出来るみたいな感じだなあ。

尾崎副団長 たとえば、団長が指示を出している周波数を、それぞれハンディ型のトランシーバーで同じ周波数で聞けば、団長が私に指示を出したことを全員が聞こうとしたら聞ける。そういう伝達のメリットもあるんですよ。

ダニエル なるほどねえ、携帯は一人対一人



でプライバシーは守られますよね。無線だとプライバシーは無いんですよ。無線機を持って同じ周波数を聞くことができるから、家や車でFM放送やテレビを見たりしているのとかわからないんだ。しかも、こちらからも団長に話せて会話ができるし、会話が一方通行じゃないわけだから、「災害はどこだ。」どこがひどい目にあっているんだとか。これは、よその人が聞いていても構わないことですよ。かえって助かるかもしれないもんね。それは、いいですよ。お金は結構かかるんですか？

荒堀団長 普通に独学をして国家試験を受けると、5,000円程度ですが、受験のための講習会を受けてその後受験するまで、1人22,750円で、ある程度の参加者人数がまとまれば、団員だけで講習会が開催できます。

ダニエル 予算的には免許を取得するのはあまり高くはないんだ。

じゃあ。万が一の場合は、すごく役に立つシステムなんですね。他の地域で、アマチュア無線を使っている地域ってあるんですか？

尾崎副団長 まだ、本格的に取り組んでいる所はないと思います。うちが取り組んでいるアマチュア無線の講習会は、4月に日程も決まっています。50人が受講、秋には15人の予定です。

ダニエル 定員が？50人？

荒堀団長 つまり 300 人の消防団員の中で 50 人が受講することになります。

ダニエル なるほどね。本当に東日本大震災のあとにも、僕もチラッと買ったんだよね。東京で、友達がアマチュア無線をやってんだけど、電話が通じないって。じゃあ、友達の所に行って使わせてもらおうかなって。思ってましたが免許もってないんです。彼に色々言ってもらえばいいんだな。これは、おもしろいシステムですね。

尾崎副団長 今、分団では、基地局からどの位離れてハンディで、クリアに交信できるか、毎週日曜日の夜、無線の持っている連中同志でロールコール（基地局がオンエアミーティングを開始する際に参加局の点呼をとり感度などを確認する。）をやっています。



ダニエル じゃあ色んな所に行って。テストされているわけですね。

最後に、二つだけ聞きたいですけれども。みなべ町の消防団の良いところやPRしたいことを教えてください。

荒堀団長 自慢できることは、とにかくみんなが熱心ですね。活動にしても提案してくれませし、大体普通は事務局が役場であって、事務局さんがこれして下さい。っていう感じで活動

を普通はやりますけど、団員が熱心なので年に 2 回の会議のなかで色々な意見がどんどん出てきて、それを活動に反映しています。そんなところが「みなべ町消防団」の自慢できるところです。

ダニエル なるほど。前向きで熱心だ。

荒堀団長 副団長も分団長がしっかりしてますから、そこが自慢できます。

ダニエル みなべ町は消防団員も町も熱心で万が一に備えて無線も導入しています。これも、結構自慢できる事だと思いますね。

荒堀団長 そうですね。

ダニエル なんだろう。暖かくて、雪が積もらなくて。これは山形県民として悔しいなあー。山形は災害が少ないところなんです。災害が本当に少ない所なんですけれども。雪だけは大変なんですよ。今度は、山形の消防団もインタビューせねばなんねえなあ。一番多い仕事はなんだろうなって。おじさんは、雪おろして。転んでけがしちゃった。とか。こちらは、温暖で自慢出来ますし、美味しい梅干しは沢山あるし。宣伝しやすい町だと思います。消防団としては、熱心、アマチュア無線にも力入れているんだ。全国の消防団員の皆さんに言いたいですけれども。「みなべに学べ！」

小田副団長 県下で初めて。東日本に研修行きました。班長以上 41 名連れて、幹部が東日本に行ってきました。

ダニエル 行ってきました。おっー。

小田副団長 被災地の現状を見るのと、向こうの消防団と交流させてもらって、生の声を聞くことが出来て大変勉強になりました。良い経験をさせてもらいました。

ダニエル どちらの方に行ったんですか？

小田副団長 岩手県山田町と福島県の新地町。その 2 班に分かれて。交流がすごく良かったです。

その中でアマチュア無線の話が出てきました。

ダニエル たぶん、すれ違ったと思いますよ。私も山田町には、何回も行っているんですよ。支援物資を運んだり色々してましたよ。何月頃行ったんですか？

小田副団長 去年の11月の終わりと12月の初め。2班に分かれていきました。



宮城県石巻市へ視察研修



福島県新地町へ視察研修

ダニエル ゆっくりと。美味しい物を。その時期は、アワビと色々美味しい時期なんですよ。

竹田副団長 和歌山県では、取組みとして初めて。あくまでも行政省庁の配慮ということで派遣されたってことで。和歌山県の消防団として初めて。みなべ町だけが行ってきました。

ダニエル お陰様で、和歌山の県民の方々が町のあちらこちらにいらっしゃいました。ボランティアの方、県警察の方、関西の方の警察がいっぱい来て頂いて治安が良くなりました。

竹田副団長 僕らが行って来て、行かなかった団員さんに、こういう悲惨な状況だったと。我々もこれを教訓としてこの次の南海トラフの地震に備えていかなければいかんと伝えていこうとはするんやけど。やっぱり見てきたものと、聞くものとは温度差がでます。これを聞いた団員達が新地町へ自分で視察に行くと言い8名位で行って来たんですわ。

ダニエル 南三陸みたいになってしまう。本当に地形的には似てますね。そう考えると異常の津波だったんですけども。想像もつかない。万が一の時にどうしたらいいか。いかに早く高台に非難するか。

荒堀団長 消防団としては、とにかく町民の一人一人全員が、地震が来たら逃げるんや。津波が来るから逃げるんや。ということ徹底させたいと思います。

ダニエル 高台にいかに早く非難をさせるかっていうのがなによりもの仕事でしょうね。こちらの方では新しい道路をどーんと逃げられる広い道路とか。山に行く道路とか。そういう工事も考えないと。仙台市の隣の多賀城市はそれがネックだったんですよ。大変なお仕事だとわかりますけれども、南海トラフの心配はありますんで、これからもみなべ町の人達のために色々、無線と道路とか頑張って準備を続けてください。

また、来たいと思います。

今日は、お話ありがとうございました。



HelloCQ こちらは、ダニエル・カールです。



みなべ町消防団の皆さん、アマチュア無線の免許取得頑張ってください。そして皆さんにBest 73を送ります。



竹田和久副団長 小田清副団長 尾崎剛通副団長
ダニエル・カール 荒堀和雄団長

全国の消防団員の皆さ～ん
みなべに学べっ ダニエル・カール